

普段はFacebookとTwitter「ロボin南相馬」で発信している
市内のロボット関連情報をかわら版としてお届けします！



World Robot Summit 2020 福島大会 南相馬ロボット産業協議会 「MISORA」で 世界第2位

世界中から集結したチームがインフラ・災害対応ロボットの技術やアイディアを競う「World Robot Summit 2020 (WRS) 福島大会」が、10月8日～10日に福島ロボットテストフィールドで開催されました。

競技種目であるインフラ・災害対応カテゴリー「災害対応標準性能評価チャレンジ」では、地元企業で構成された「南相馬ロボット産業協議会」の開発したクローラロボット「MISORA」が世界第2位という輝かしい成績を残しました。

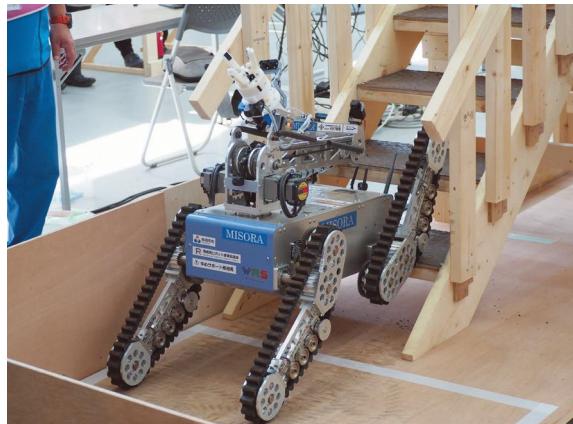


表彰を受ける「南相馬ロボット産業協議会」

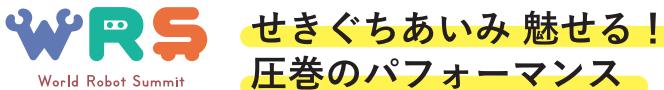
操縦していたのは、小高産業技術高校の生徒さんなんです。まだ高校生なのに、高い操縦技術を持っており、将来が楽しみです。

同協議会の五十嵐会長は「地元企業がモノづくりの経験を生かし、共同開発したことが今回の成果につながった」と話しました。

今大会で、南相馬のロボット技術の高さを世界に示し、「ロボットのまち南相馬」を印象付けることができました。



階段をスムーズに下る「MISORA」



VRアーティストで『みなみそうま未来えがき大使』の「せきぐちあいみ」さんは、9日のステージに登場し、VRライブペインティングを披露。圧巻のパフォーマンスで大会を盛り上げました。



音楽に合わせ、踊るように描くせきぐちさん

短時間で大迫力の龍を描き上げた

ロボ in 南相馬 かわら版

Vol.7

令和3年
11月15日

【お問合せ】
商工労政課
ロボット
産業推進室
電話
0244(24)5335

WRS写真で見る！WRS期間のロボ室

市ロボット産業推進室では、市のロボットに関する取組を多くの人に知ってもらうため、ブースの出展を行いました。



出展ブースに大行列！



騎馬武者もガチャをする



ステージ後に駆けつけてくれたせきぐちさん。南相馬のロボットを「人生を豊かにする恋人」と表現してくれました



HAPPYふくしま隊も来てくださいました

SNS
「ロボin南相馬」
もよろしくお願ひします



Facebook



Twitter



YouTube



【特集】産業創造センター入居企業に迫る！

南相馬市産業創造センターには様々な企業が入居し、研究・開発に取り組んでいます。本特集では、入居者の事業内容や、拠点設置の際に感じた南相馬市の魅力などについてシリーズとしてお届けしていきます。今号では「株式会社 先端力学シミュレーション研究所」に迫ります。



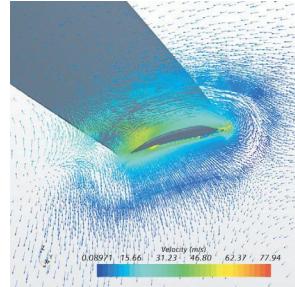
株式会社 先端力学
シミュレーション研究所
取締役
新事業創造部部長
大川 由夫
☎: 0244-26-7110
✉: ohkawa@astom.co.jp

としており、今後はドローン・ロボットの研究・開発においても、構造解析、流体解析、振動解析等の経験を活かしたいと考えています。

南相馬市では、ドローンのレベル4(有人地帯における補助者なし目視外飛行)を「純国産」のド

2020年8月から、南相馬市産業創造センターと福島ロボットテストフィールドに入居しました。

当社は、シミュレーション技術を活用し、ドローンのデザイン、設計、製作、性能評価、実証試験の支援やAIやセンサーを利用した衝突回避など、自動車分野で培った技術・ノウハウを活かして研究・開発を進めています。シミュレーションを用いた、ドローン用プロペラの性能向上や静音化を得意



ローンによって実現させるため、流体解析、構造解析等の「シミュレーション」を活用し研究・開発に取り組んでいます。実現させるには、「高い安全性と信頼性の機体」が必要であり、加えて「人口密度の高い地域」でドローンを飛行させるためには、最大の騒音源であるプロペラの低騒音化を実現することが不可欠です。

南相馬市は、ロボット・ドローン関連の企業が多く、最新情報を得られるため非常に良い環境と感じています。

また、今後は、地元採用や企業連携を実現したいと考えていますので、気軽にお声掛けをお願いします。



NEDO採択プロジェクト ドローンを活用した災害時体制構築へ



同時運航は、陸地だけでなく、海でも行われた

この実証試験は、国の研究機関「新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)」のプロジェクトの一環で実施しています。

実証試験では、複数のドローンが飛行する際、衝突しないように飛行ルートなどを監視する「ドローン運航管理システム」を活用し、空撮による情報収集や、スピーカ搭載ドローンによる避難誘導の有効性の検証などを行いました。

将来的には、災害発生時にドローンで収集した情報を市の災害対策本部などへ共有し、意思決定の迅速化につなげ、これから災害対応モデル構築に役立てます。

市と市内のドローン関連企業5社は、災害発生時に被害状況を迅速に把握するための体制構築に向けたドローンの実証試験を行いました。

この実証試験は、国の研究機関「新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)」のプロジェクトの一環で実施しています。

実証試験では、複数のドローンが飛行する際、衝突しないように飛行ルートなどを監視する「ドローン運航管理システム」を活用し、空撮による情報収集や、スピーカ搭載ドローンによる避難誘導の有効性の検証などを行いました。

スピーカ搭載ドローンによる避難誘導試験



ドローンの操縦、観測を行う関係者



タブレット端末で、ドローンの飛行状況を確認できる

原町区片倉の休耕地で 小型人工衛星の打ち上げに成功！

県外の高校生が市内実証フィールドを活用

高校生を対象とした国際的な競技会「FIRSTグローバルチャレンジ」に参加するため、県外の高校生が、市内を訪れ、休耕地で実験を行いました。

実験では、製作した小型人工衛星をバルーンで打ち上げ、データ測定ができる事を確認しました。

市で実験を行った若者が、世界トップレベルの研究者や技術者に育っていくといいですね！



打ち上げの時を待つ高校生と引率者



市内実証フィールドの詳細はこちら